

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果

調査概要

調査日時：平成27年4月21日（火）

調査事項：

- ①児童生徒に対する調査：国語，算数・数学，理科及び質問紙調査
- ②学校に対する質問紙調査

調査対象及び集計対象児童生徒・学校数：

	小学校				中学校			
	児童数		学校数		生徒数		学校数	
	調査対象児童数※1	4月21日に調査を実施した児童数※2	調査対象学校数	4月21日に調査を実施した学校数	調査対象生徒数※1	4月21日に調査を実施した生徒数※2	調査対象学校数	4月21日に調査を実施した学校数
公立	1,090,146人	1,061,301人	20,033校	20,005校 (99.9%)	1,079,303人	1,016,737人	9,731校	9,691校 (99.6%)
国立	7,151人	7,023人	75校	75校 (100.0%)	11,868人	10,428人	80校	78校 (97.5%)
私立	13,132人	6,383人	219校	111校 (50.7%)	82,086人	29,756人	757校	351校 (46.4%)
合計	1,110,429人	1,074,707人	20,327校	20,191校 (99.3%)	1,173,257人	1,056,921人	10,568校	10,120校 (95.8%)

※1 調査対象児童生徒数について、公立・国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、平成26年度学校基本調査による。調査当日までの転出入等により増減の可能性がある。

※2 調査を実施した児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

教科の調査結果

全国（国公私）の平均正答率・数

	小学校					中学校				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
平成27年度	70.2% 9.8 /14問	65.6% 5.9 /9問	75.3% 12.1 /16問	45.2% 5.9 /13問	61.0% 14.6 /24問	76.2% 25.2 /33問	66.2% 6.0 /9問	65.0% 23.4 /36問	42.4% 6.4 /15問	53.5% 13.4 /25問
(参考値)※ 平成26年度	73.1% 11.0 /15問	55.6% 5.6 /10問	78.2% 13.3 /17問	58.4% 7.6 /13問	61.1% 14.7 /24問	79.8% 25.5 /32問	51.6% 4.6 /9問	67.9% 24.5 /36問	60.5% 9.1 /15問	52.1% 13.6 /26問

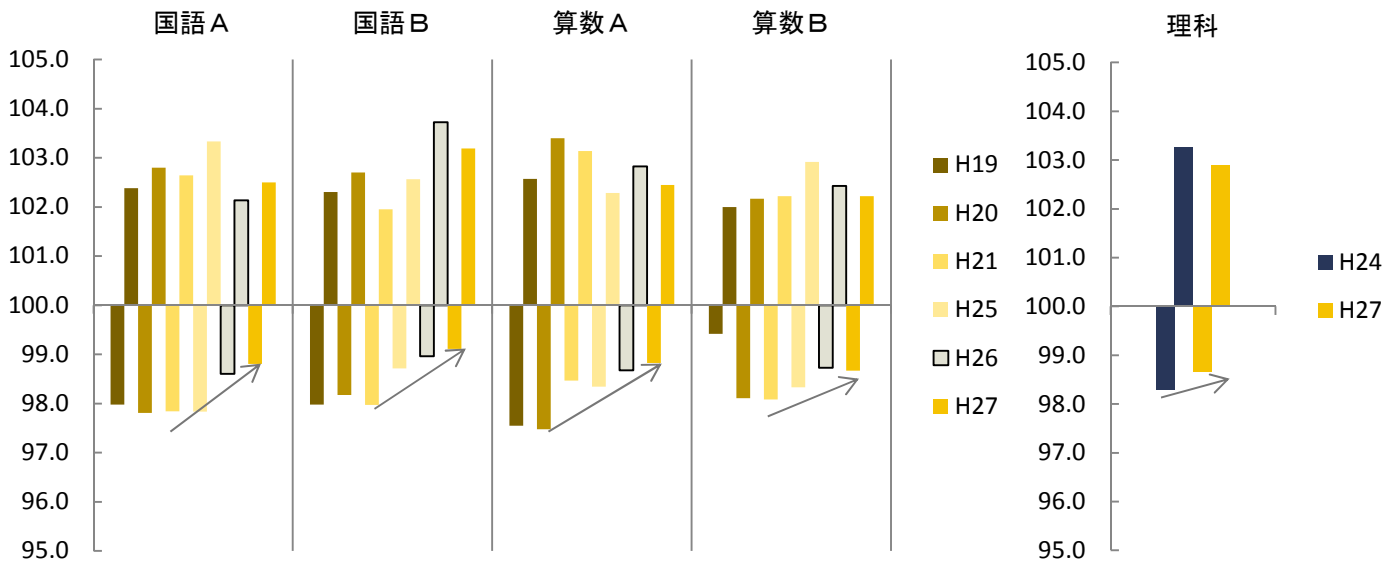
※理科についての参考値は、平成24年度のもの。

1. 都道府県の状況（公立）

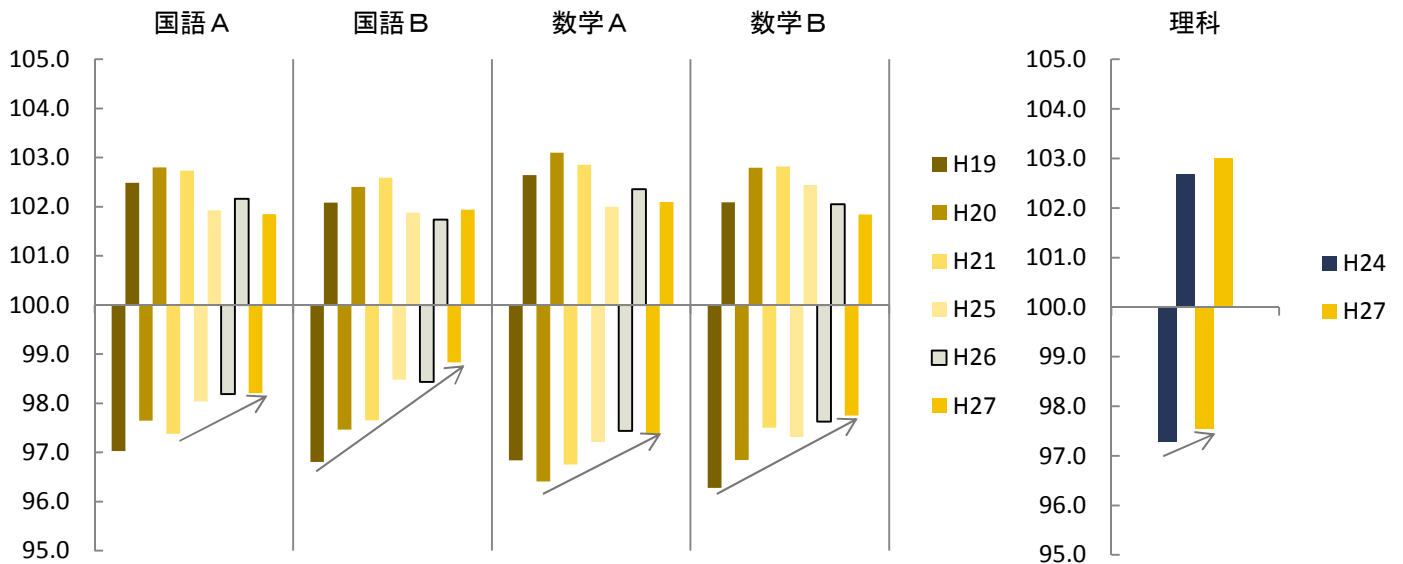
- 国語、算数・数学については、引き続き、下位県の成績が全国平均に近づく状況が見られ、学力の底上げが図られている
- 理科についても、平成24年度調査実施時と比べ、下位県の成績に改善傾向が見られる

平成19・20・21・25・26・27年度で、平均正答数（公立）が高い3都道府県と低い3都道府県の標準化得点の平均を算出（理科については、平成24・27年度で算出） ※標準化得点が同値の場合は、それらの都道府県全ての標準化得点の平均を算出

【小学校】



【中学校】



※標準化得点・・・各年度の調査は問題が異なることから、平均正答率による単純な比較ができないため、年度間の相対的な比較をすることが可能となるよう、各年度の調査の全国（公立）の平均正答数がそれぞれ100となるように標準化した得点

2. 教科に関する調査結果

- これまでの調査で見られた課題について、依然として課題が見られるものがある一方、改善の状況が見られるものもあった。
- 3年ぶりに実施した理科については、前回(平成24年度)調査で見られた課題「観察・実験の結果などを整理・分析した上で、解釈・考察し、説明すること」について、課題の所在が明確になった。

理科

<小学校>

観察・実験の結果を整理し考察することについて、得られたデータと現象を関連付けて考察することは相当数の児童ができているが、実験の結果を示したグラフを基に定量的に捉えて考察することに課題がある。

(別紙 P.1~2)

地面に水をまいたときの地面の様子と温度変化について、実験結果から言えることを選ぶ設問

【4】(6)(84.3%)

水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く設問

【3】(6)(29.2%)

科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりすることについて、水蒸気は水が気体になったものであることは、改善の状況が見られる。(別紙 P.3)

水蒸気の状態の説明として当てはまるものを選ぶ設問

【3】(1)(82.0%)

予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想したり、実験結果を基に自分の考えを改善したりすることに課題がある。

(別紙 P.4)

水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ設問

【3】(2)(54.2%)

水の温まり方について、実験結果から考え直した内容を選ぶ設問

【3】(3)(51.9%)

<中学校>

物質を化学式で表すことは良好であるが、特定の質量パーセント濃度における水溶液の溶質の質量と水の質量を求めることに依然として課題がある。

(別紙 P.5)

塩化ナトリウムの化学式を選ぶ設問 【1】(1)(79.9%)

濃度5%の塩化ナトリウム水溶液100gをつくるために必要な塩化ナトリウムと水の質量を求める設問

【1】(1)(46.0%)

「化学変化を表したグラフ」や「実験結果を示した表」から分析して解釈し、変化を見いだすことは良好であるが、実験結果を数値で示した表から分析して解釈し、規則性を見いだすことには課題がある。

(別紙 P.6~7)

炭酸水素ナトリウムを加熱したときの質量の変化のグラフから、温度と化学変化の記述として適切なものを選ぶ設問

【1】(4)(74.0%)

キウイフルーツがゼラチンや寒天を分解する働きを説明した記述として適切なものを選ぶ設問

【7】(2)(76.8%)

実験の結果から、凸レンズによる実像ができるときの、像の位置や大きさについて適切な説明を選ぶ設問

【4】(1)(44.5%)

課題に正対した実験を計画することや考察することに課題がある。(別紙 P.8)

ベーキングパウダーの原材料で、気体の発生に関係しているのが、炭酸水素ナトリウムであることを特定するための対照実験を選ぶ設問

【1】(5)(52.5%)

課題に対して適切な(課題に正対した)考察になるよう修正する設問

【8】(3)(48.1%)

国語

<小学校>

新聞のコラムを読んで、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成や表現の工夫を捉えることに課題がある。また、引用することに、依然として課題がある。(別紙 P.9)

コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する設問 【A5一】(59.7%)
コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く設問 【A5二】(20.0%)

学校新聞を書く場面において、目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことに課題がある。(別紙 P.10~11)

【参加された方へのインタビューの様子】の内容をまとめて書く設問 【B1三】(34.9%)

算数・数学

<小学校>

グラフに表されている事柄を読み取ることや平行四辺形を構成する辺の性質の理解に、改善の状況が見られる。(別紙 P.17~18)

ハンカチを5日間持ってきた人数が、学年全体の人数の半分より少ない学年は、4年生だけであることを示しているグラフを選ぶ設問 【A7】(81.9%)
平行四辺形を構成することができる、四つの辺の組み合わせを選ぶ設問 【B1(1)】(95.3%)

基準量、比較量、割合の関係を捉え、基準量を求めることに依然として課題がある。

(別紙 P.19)

20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く設問 【B2(2)】(13.4%)

<中学校>

伝えたい事実や事柄について自分の考えや気持ちを示してはいるが、根拠を明確にして書く点に、依然として課題がある。(別紙 P.12~14)

演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く設問 【B1三】(56.6%)
文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く設問 【B3三】(31.7%)

目的に応じて文章や資料から必要な情報を取り出してはいるが、それらを基にして自分の考えを具体的にまとめる点に、依然として課題がある。

(別紙 P.15~16)

資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く設問 【B2三】(23.3%)

<中学校>

等式の性質と式変形の間接関係を理解すること、垂線の作図の方法を図形の対称性に着目して見直すこと、記号で表された図形の構成要素間の関係を読み取ることについて、改善の状況が見られる。

(別紙 P.20~21)

一元一次方程式 $7x=5x+4$ を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ設問 【A3(1)】(79.8%)
垂線の作図で利用されている図形の性質を選ぶ設問 【A4(1)】(59.6%)
ひし形ABCDにおいて、 $AC \perp BD$ が表す性質を選ぶ設問 【A7(1)】(76.6%)

記述式問題のうち、予想した事柄の説明には改善の状況が見られるが、数学的な表現を用いた理由の説明に課題がある。(別紙 P.22~24)

連続する5つの整数の和について成り立つ事柄を表現する設問 【B2(3)】(64.4%)
映像の明るさを2倍にするための投映画面の面積の変え方を選び、その理由を説明する設問 【B1(3)】(12.3%)
2回目の調査の方が落とし物の状況がよくなったとは言いきれないと主張することもできる理由を、グラフを基に説明する設問 【B5(2)】(24.0%)

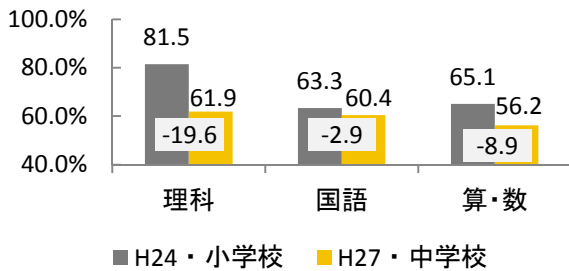
3. 質問紙の状況

理科に関する項目[児童生徒質問紙]

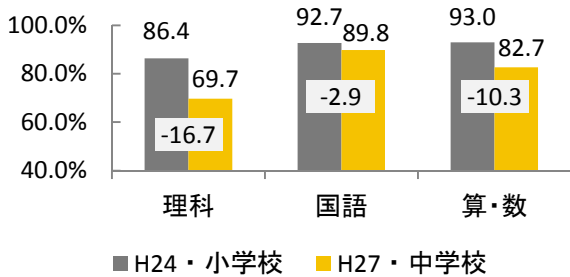
- 学習に対する関心・意欲・態度に関する質問項目について、小学校より中学校で肯定的回答が減少する傾向があるが、**理科については、国語、算数・数学と比較しても顕著**（同一世代に当たる平成24年度の小学校6年生と平成27年度の中学校3年生の回答状況を比較）
- 理科に関する、児童生徒の学習の状況と学力との関係では
 - ・自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりする
 - ・自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている
 - ・観察や実験の結果からどのようなことが分かったか考える
 - ・観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考える
 などについて、肯定的回答をしている児童生徒の方が、正答率が高い状況であった
- また、上記の項目について、平成24年度と比較すると、肯定的回答が増加している

関心・意欲・態度に関する項目の小6→中3（同一世代）での変化

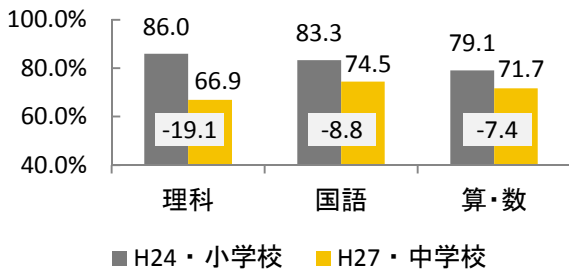
教科の勉強が好き



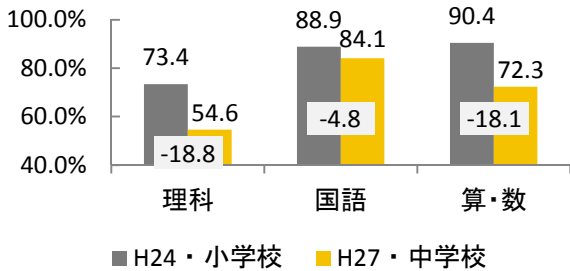
教科の勉強は大切



教科の勉強が分かる



教科の勉強は役に立つ

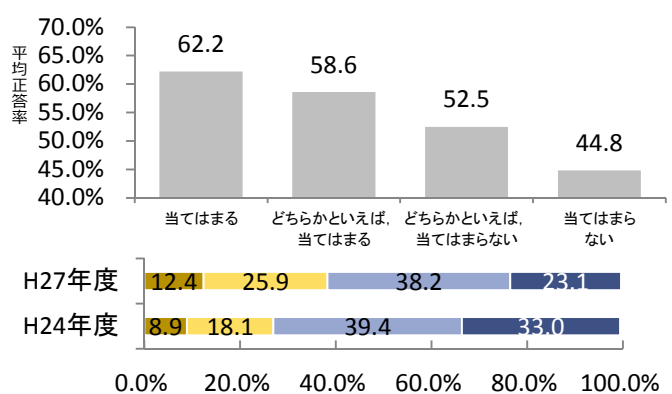
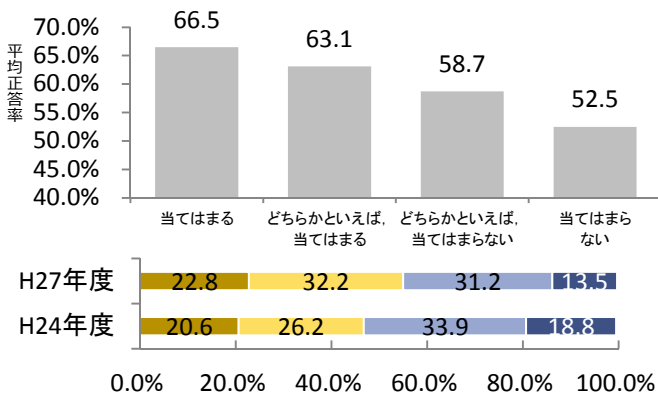


小・中学校ともH24からH27にかけて肯定的回答が増加した項目例

理科の授業で、自分の考え（や考察）をまわりの人に説明したり発表したりしていますか

【小学校】

【中学校】



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

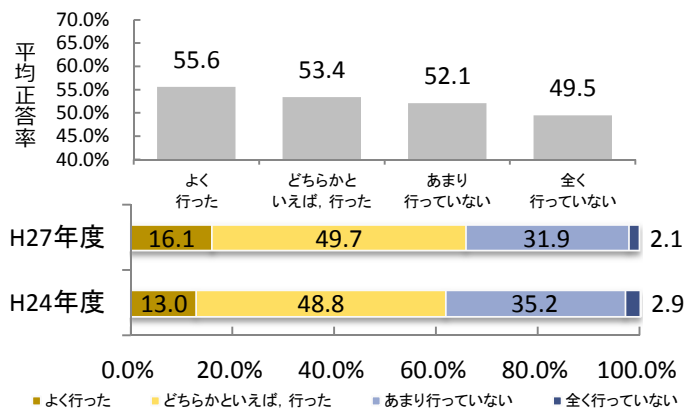
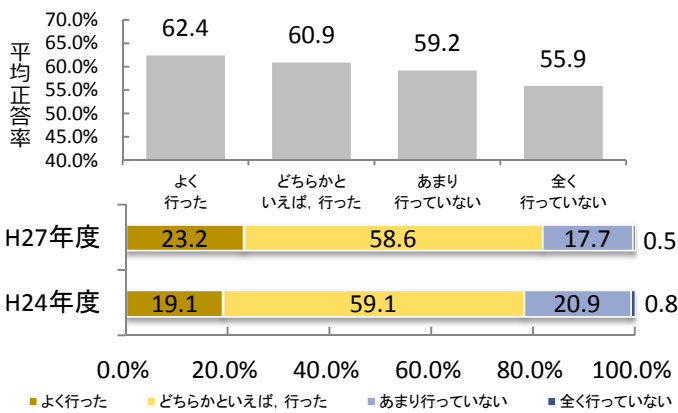
理科に関する項目[学校質問紙]

- 理科に関する指導方法と学力との関係では
 - ・自ら考えた仮説をもとに観察，実験の計画を立てさせる指導
 - ・観察や実験の結果を整理し考察する（分析し解釈する）指導
 - ・観察や実験におけるカードやノートへの記録・記述の方法（観察や実験のレポートの作成方法）に関する指導
 などについて，よく行ったと回答している学校の方が，平均正答率が高い状況であった
- また，上記項目について，平成24年度と比較すると，よく行ったと回答している学校が増加している

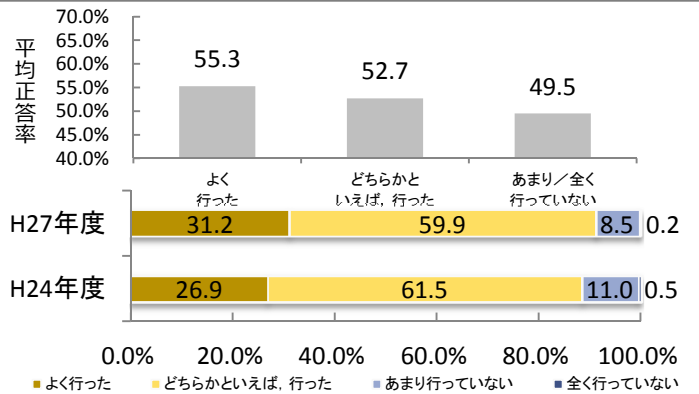
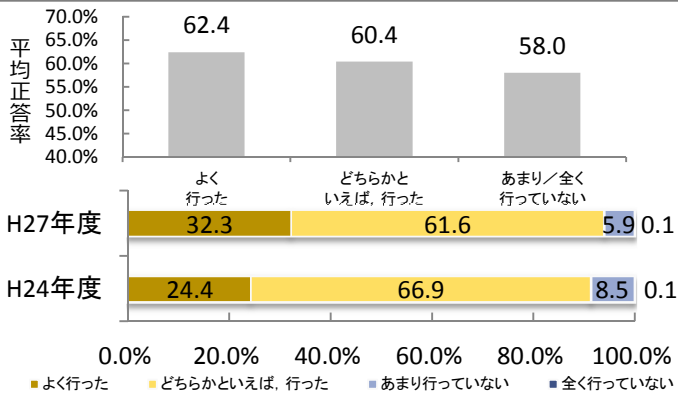
【小学校】

【中学校】

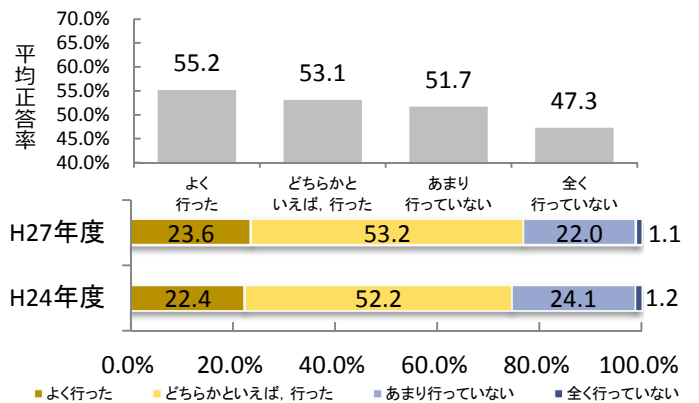
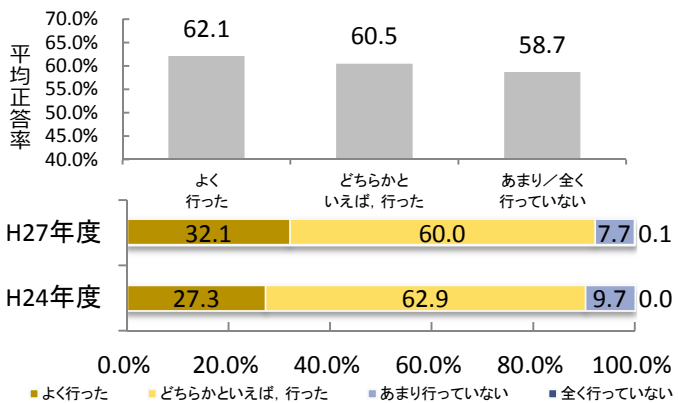
調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として，前年度までに，自ら考えた仮説をもとに観察，実験の計画を立てさせる指導を行いましたか



調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として，前年度までに，観察や実験の結果を整理し考察する（分析し解釈する）指導を行いましたか



調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として，前年度までに，観察や実験におけるカードやノートへの記録・記述の方法（観察や実験のレポートの作成方法）に関する指導を行いましたか



※選択肢毎の平均正答率は，選択肢の回答数が100校未満のものについては，一つ前の選択肢の回答とまとめて算出

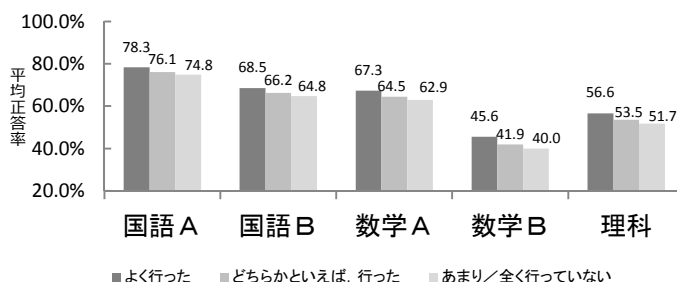
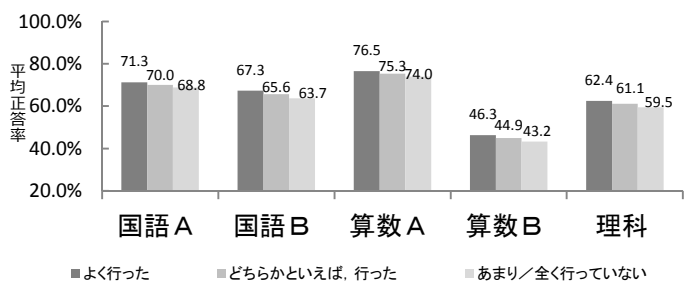
学校における指導に関する項目

- 学校における指導と学力の関係について、今年度新たに設けた項目においては、以下の状況
 - ・「児童生徒が学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動」→**小学校・中学校ともに、「よく行った」と回答している学校の方が、平均正答率が高い状況**
 - ・「授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書く指導」→**小学校においては、「よく行った」と回答している学校の方が、平均正答率が高い状況**
- また、「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」について、肯定的回答の方が平均正答率が高い状況であった

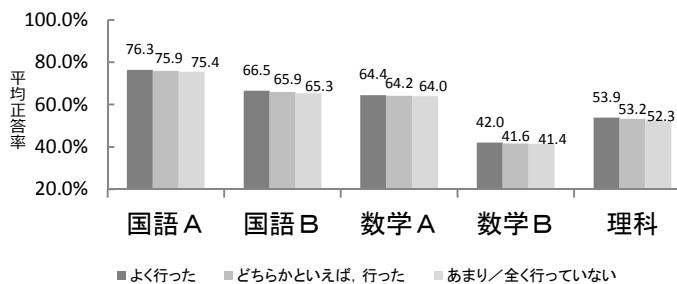
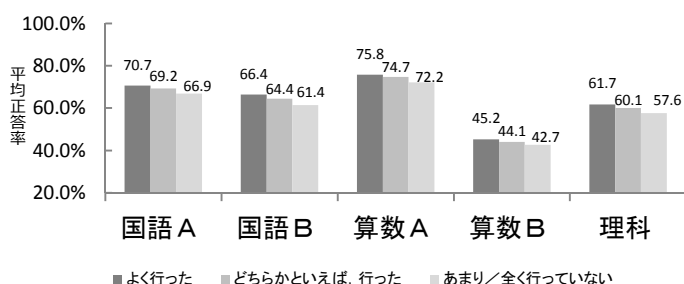
【小学校】

【中学校】

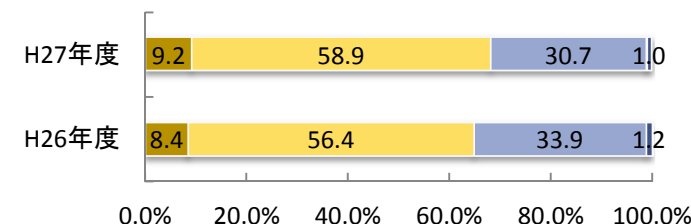
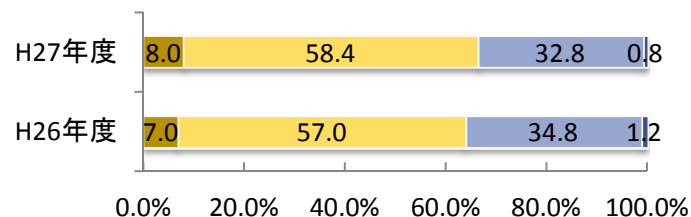
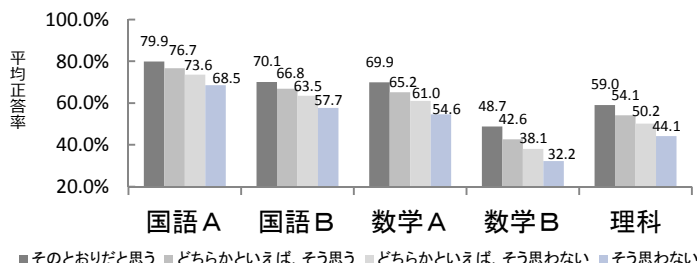
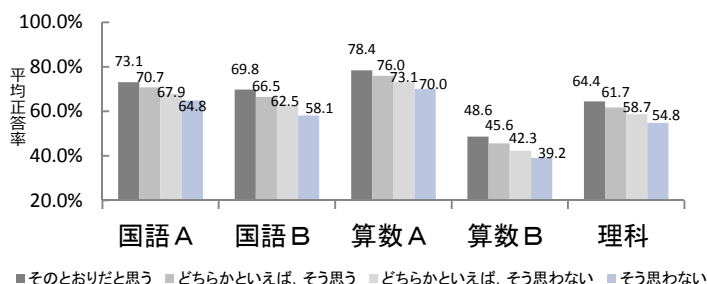
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか



調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導しましたか



調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



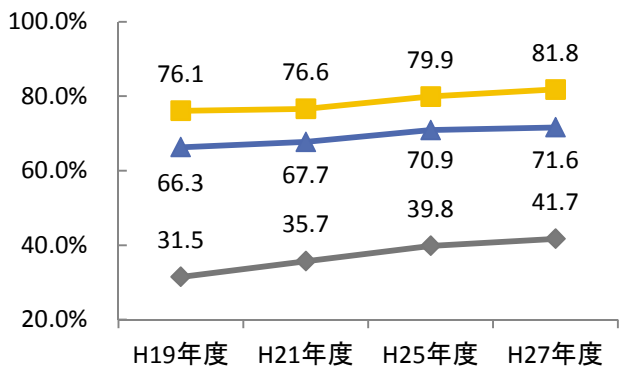
※選択肢毎の平均正答率は、選択肢の回答数が100校未満のものについては、一つ前の選択肢の回答とまとめて算出

児童生徒の変化

- 児童生徒の質問紙への回答状況として、規範意識に関わる項目（「学校のきまり（規則）を守っていますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」など）について、初めて調査を行った平成19年度と比較すると、「当てはまる」と回答する児童生徒が増加。特に、中学校において顕著な傾向
- 生活習慣に関して、平成20年度と比較すると、テレビやDVDを2時間以上見ると回答している割合が減少する一方で、ゲームを2時間以上する割合が増加
- また、インターネットとの関わりについて、1日1時間以上インターネットをすると回答した割合が、平成26年度と比較して小学校ではやや増加

【小学校】

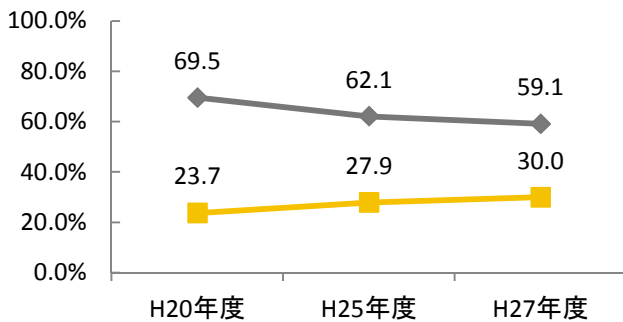
○規範意識



◆ 学校のきまりを守っていますか
 ■ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
 ▲ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

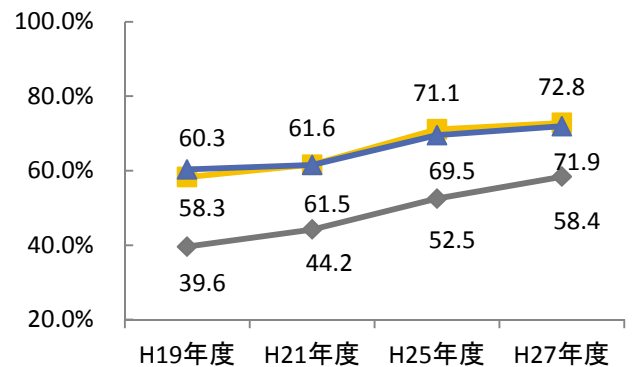
※「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

○生活習慣

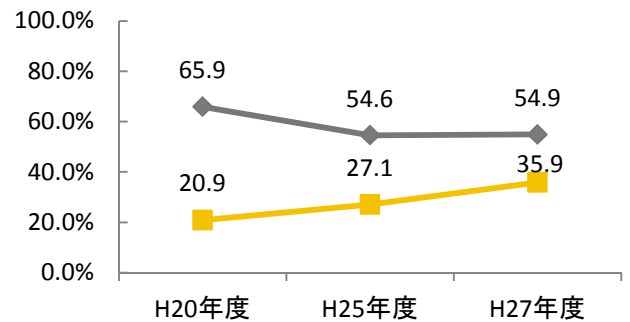


◆ 1日当たり2時間以上、テレビやDVDを見ると回答した割合
 ■ 1日当たり2時間以上、ゲームをすると回答した割合

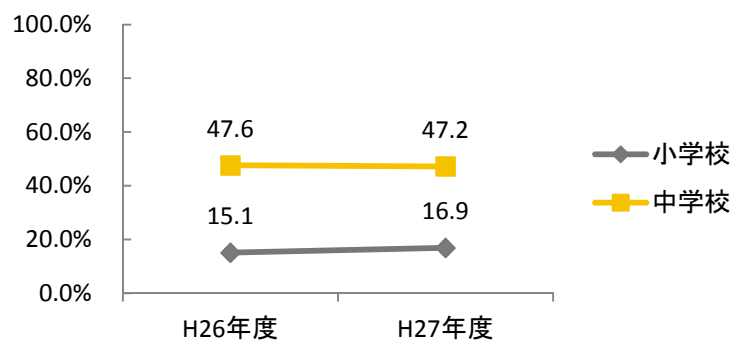
【中学校】



◆ 学校の規則を守っていますか
 ■ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
 ▲ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



◆ 1日当たり2時間以上、テレビやDVDを見ると回答した割合
 ■ 1日当たり2時間以上、ゲームをすると回答した割合



1日当たり1時間以上、携帯やスマートフォンでメールやインターネットをすると回答した割合